

令和6年度 自己評価表（年度末）

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 学校の教育目標

<建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

<校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

<静岡福祉医療専門学校 教育方針>

「21世紀の医療福祉—高齢社会に対応できる福祉スペシャリスト（保育士・幼稚園教諭、社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事、訪問介護員、福祉レクリエーション・ワーカー、視能訓練士）の育成」

○総合福祉学科の学習指導方針

「急速な少子・高齢化が進展するなか、複雑化・多様化・高度化する福祉・介護ニーズに対応できる中核的人材として、1年以上の実務経験を経て、高齢者、障害者、児童、生活困窮者など、福祉界全ての分野において活躍できる総合的な相談援助の力量を持つ福祉介護職を育成することを目的とする。」

○介護福祉学科の学習指導方針

「共感性豊かで、専門的知識と技術に精通した介護福祉士の養成」

確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション技術・基本的人権・専門知識と技術の習得を行い、施設・在宅で生活している利用者の安全で快適な生活を援助でき、専門職としての高い倫理観を持った介護福祉士の養成を行う。

○子ども心理学科の学習指導方針

「子どもたちの“こころ”と“からだ”の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切に保育士・保育教諭・幼稚園教諭を育成」

○視能訓練士学科の学習指導方針

「生活の質・視覚の質に貢献し、自ら考え行動できる視能訓練士の養成」

視能矯正の十分な知識と技能を有し、実践力はもとより、患者を理解する深い洞察力と対人援助職としての「患者をおもいやる気持ち」、多職種と連携できる高いコミュニケーション力を有する視能訓練士を養成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【介護福祉学科】

①目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた介護専門職の育成に向け、教育内容を改正する。

プラン：挨拶、掃除等日常生活においての基礎が自ら行える。

自主的に介護技術をトレーニングする。

学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をする。

学生一人一人の能力を向上させる。

介護領域のSDGsを学ぶ。

②目 標：2025年問題を意識して、地域のニーズに応じた介護人材を増やせるような取り組みをする。

プラン：インクルージョンの考え方を学ぶ。

外国人も日本人もお互いに個性を認め合うような授業やクラス運営を目指す。

自分たちに何ができるのか考え行動できる人材を育成する。

【総合福祉学科】

①目 標：目指す福祉・介護専門職像を常に意識し、なりたい自分の具現化を図るための手段を考える。

プラン：自分が目指す将来像を考え、言語化する機会をもつ

将来像に向け、自分に必要な力、身につけたい力とその手段を明確化させる

実習、学びのたびに自分の強みに気づき、自己肯定感を高めていく

②目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた福祉・介護専門職の育成

プラン：新カリキュラムにおける教育内容を効果的に学習できるようにする

実践能力を高められる実習・演習内容を行う

実習指導者や科目担当者教員と密に連絡を取り、必要に応じた個別指導を十分に行う

③目 標：地域貢献活動を活性化させていく。

プラン：学生が主体的に取り組めるようにする。

実習以外のゼミナール活動、ボランティア活動等のフィールドスタディの機会を増やし、プランニング力やマネジメント力も高めていく

他学年との合同授業を実施し、連携やチームビルディングについて学ぶ

【子ども心理学科】

①目 標：子どもを取り巻く環境に関心を持つ

プラン：職場体験、ボランティア等フィールドスタディから得られる生きた体験を通じて、刻々と変化する「子どもを取り巻く環境」に関心を持つ。

②目 標：主体性をもちながら協働して学ぶ態度を養う

プラン：「子どもや保護者のために何ができるのか」「自分は何がしたいのか」等、学生自身が自ら考え、答えを探し続けていけるよう（問いを立てる）、教育活動の節目に振り返りと目標の立案の機会を設けていく。また、仲間との共同作業の機会を設け、学び合いの機会に積極的に参加する。

③目 標：保育者としてのコミュニケーション能力を身につける

プラン：目的や状況に応じたコミュニケーションを図るために、表現力だけでなく、共感的傾聴力を身につけていく。

【視能訓練士学科】

①目 標：学生一人ひとりに医療人としての自覚を促し、現場で求められるマナー（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間の使い方）を身につけさせ、直感的に適切な判断ができる力を含む医療従事者としての「核となる感覚」を育てる。

プラン：実際の事例を使用したケーススタディやロールプレイングを通じて、どのような言葉遣いや身だしなみが求められるかを学生に体験させ、医療人としての感覚を養う。

②目 標：学生が正確な技術と知識を習得し、自分の目指す視能訓練士像を明確にして、それを自分の言葉で具体的に表現できるようにする。

プラン：学生にポートフォリオを作成させ、学びの成果やフィードバックを通じて成長を可視化させる。また、下級生が目標にするようなプロトタイプとなる学生を育成する。臨地実習では、学生各自が目標に合ったロールモデルを見つけ、その姿勢やスキルを学び、将来像を具体化できるようにする。目標や進捗についてプレゼンテーションを行う機会を提供し、自己表現力を高める。

③目 標：学生一人ひとりに合った勉強方法を提案し、国家試験全員合格を目指して学力を向上させる。

プラン：段階的な模擬試験を実施し、フィードバックを通じてモチベーションの維持と知識の定着を図る。弱点对策補講を行い、学力が遅れがちな学生をサポートしながら全体の学力を引き上げる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

【介護福祉学科】

①目標：

・時代と地域のニーズは介護人材を増やすということが最大目標である。入学して来られた学生の資質はまちまちではあるが、まずは1人も退学者を出していないということは評価できる。総合的力を伸ばすのは難しい面もあるが、挨拶、掃除等日常生活における基礎やマナーを身に付け、自ら考えて行動できるような指導を継続する。

・学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をするなど、個人の能力を向上させるような細かい指導をしているが、今年度の1年生は能力的な課題が多く、保護者に来校していただき、相談しながら今後の指導方法を考えて行っている。

②目標：

・台湾の研修修学旅行もグローバル的に大きな成果であった。外国人留学生と日本人学生が学びあい高めあい、学生が主体的に取り組めるよう、学内外のコラボレーションのあり方を今後も整備していく。

・2025年問題を意識化させ、授業等で福祉の基本理念を学び、自らがインクルージョンの考えを取り入れた生活ができるよう促している。

・1年生の実習報告会を2年生も聞いて、アドバイスでき、双方によかった。

・「介護領域のSDGsとは」を調べ学習した。

・看護学生とのコラボ授業を通して、介護福祉士のアイデンティティとは何かを自覚することができた。

【総合福祉学科】

①目標：自分の目指す福祉・介護専門職像を学年が上がるにつれ、より明確化できるよう考える機会を作り、それを言語化し、他者に表現する環境作りを行った。他学年との合同ゼミナールを通じて、上級生の姿をみることで、身近なモデルを作りやすくなったと感じる。1年生は1年間の学びを活かして言語化しており、2・3年生は1年のことを認め、その将来像を固める手助けを行っていた。グループワークや他者との関わりの中で、基本的な挨拶やマナー、自分の強みや身につけるべき力についても意識させることができたので、継続していきたい。

②目標：授業の中で、実際の現場を想定した演習を行った。介護実習前、ソーシャルワーク実習前にはまず学内で実践練習をし、実習先で実践本番を行えるようにした。特に初めての実習を行う1年生にとっては、不安を取り除けるものとなり、実習での学びがより効果的なものとなった。実習指導者と密に連絡を取りながら、個人に合わせた実習プログラムを組んでいただき、実践する機会を多くいただけた。

③目標：各種ボランティアの情報を学生に提供しているが、積極的に参加する学生が多かった。特に、1年生は多くのボランティア活動に参加することができ、最後のまとめとして学科内で活動報告会を行った。振り返りの中で、参加スタッフ側の目的だけでなく、

運営側の目的まで推察できていたことは、今後のプランニング力に期待ができると考える。さらに、自分たちが行った活動を地域福祉とつなげて考える合同授業に広げることができた。実習以外のフィールドスタディの機会が増えてきている。

【子ども心理学科】

- ①②目標：1年生は、科目「地域ボランティア」の中で、学校からの紹介だけでなく、自らアンテナを立てて活動を探したり、科目としての履修時間は終了しても、なお、自主的にボランティア活動を続けたりしている学生も出てきている。
- 2年生は、後期に探究活動を行った。「子ども」に関するテーマを自ら考え、調べたり、外部の活動に参加した内容についてプレゼンテーションを行ったりした。自ら問いを立て、追求していく学習は、学生の個性も出てきたと感じている。
- 3年生は、科目「専攻別ゼミナール（5専攻）」に分かれ、研究テーマを絞り、「調べる・見る・聞く・参加する」を通じて見識を深め、卒業研究発表会として、2号館801マルチメディア教室にて発表した。グループでの活動を1年間行い、時にもめることもあったようだが、最終的には自分たちで納得のできる集大成となったようである。
- ③目標：共感的傾聴力を高めるという目標に関しては不十分だったといえる。ますます複雑化していく社会の中で、福祉・教育分野には求められる能力である。来年度も学科として継続的な目標としていきたい。

【視能訓練士学科】

- ①目標：実習前教育等で実際の事例を使用したケーススタディやロールプレイングを通じて、医療人としての感覚を養うようにはしているが、繰り返し続けていくことが必要だと感じている。また、日常生活の中でも「医療人としての感覚」については、時間をかけて引き続き指導していく必要がある。
- ②目標：将来像を描けない学生へのサポートが不足しており、退学者増加へ繋がったと考えている。自分の言葉で目標とする視能訓練士像を表現できるようになるために、今後早い段階で、さまざまな視能訓練士の働き方や役割を紹介するなど、学生が自身の目標を設定しやすくなるような機会を提供する必要がある。また、ポートフォリオで成長を可視化するために、作成だけではなく個別面談で目標の進捗を確認する体制を整え、段階的に小さな目標を設定する仕組み作りを考えていきたい。
- ③目標：2年次から、国家試験対策のためのツール作成や段階的な模擬試験を行った。3年次の模擬試験では、国家試験過去問題だけではなくオリジナル問題を出題することで、要点をしっかりと理解させるようにした。また、1対1での口頭試問や国家試験前日までeラーニングを行うことで、ポイントの確認とアウトプットの機会を設けるようにしてきた。結果、国家試験当日には全員が実力を発揮できたと思う。

4. 項目別自己評価

評価方法は、以下の通りである。

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

介護福祉学科

・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。

総合福祉学科

・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作る。

・特に「創造する力」の育成に力を入れていきたい。

・自分の考えや行動の傾向に気づく力（「自己認識力」）を向上させ、課題を自ら見つけられる学生を育成したい。

子ども心理学科

・「挨拶を基調とした全人教育」を目指している。挨拶が自然にできるような学生を育てていきたい。

・「ふれあいの心」を大切にできる人を目指すために、普段から周りに配慮した言葉遣いを心がけるよう促していく。

視能訓練士学科

・医療人としての確固たる基準を持ち、それを指針として物事を考え、決定できる人材を育てていきたい。

・「新しいことに挑戦し続ける力」と「現代社会の変化」に気づける敏感さ、それに「柔軟に対応する力」を育てていきたい。

②今後の改善方策

介護福祉学科

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。 ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。 <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語化する機会は、各クラス、学年、学科で随時行っていく。 ・介護福祉学科と合同で看護学校との合同授業等多職種連携授業を継続していく。視能訓練士学科、子ども心理学科との連携授業も取り入れていきたい。 ・まずは自ら情報を得ようとする力、そして得た情報の取捨選択、真似するのではなく参考にして新たなものを創造する訓練等グループワークを通じて行っていきたい。 ・自己認識を促進する教育の不足とフィードバックの未成熟さが目立つため自己評価や内省の時間を意図的に取り入れていくシートの活用やポートフォリオの作成など、内省を習慣化する仕組みをつくる。 <p><u>子ども心理学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや他者に対する配慮がなぜ必要なのか、常日ごろから教員が意識して行動すること、および、学生の気になる言動について拾っていく細やかさが求められる。 <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の事例を使用したケーススタディやロールプレイングを繰り返し行い、学んだことをその都度、言語化することで育てていきたい。 ・ことあるごとに、現代社会の変化を意識させ、どう対応するかを考え、ディスカッションの場を設ける。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<p>①課題</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、円滑な移行を行う。 ・外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。 <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ研修計画を立てていく。 ・昨年度同様、社会人講座に2，3年生の学生をアシスタントとして参加させ互いに良い効果をもたらした。

<p><u>子ども心理学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、3学年に対して「実習に関する意識調査」を実施。結果をまとめ教員間で共有した。この内容を来年度以降に活用したい。 <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会や専門研修に参加することで、最新の研究成果や実践的な知識を得ることができ、教育・指導の質を向上させることが期待される。
<p>②今後の改善方策</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内で適切な授業評価を実施したい。また教員への要望に向き合っていく。 <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。 ・実習施設や実習指導者との連携を密にしながら、実習以外のフィールドスタディでも様々な機会を学生に提供できるよう、教員は関係構築を行っていく。 ・専任教員や非常勤講師のみの授業ではなく、様々な分野の専門職の方からの「特別講座」を実施していく必要がある。 <p><u>子ども心理学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年変化する学生の性質を肯定的にとらえながら、日頃の教育活動について、教員自らが「振り返り」を行い、自己研鑽を重ねていく姿勢を持つ。 <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学生教育に有効な学会、専門研修を厳選し、参加支援をお願いしたい。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度より、学校共通書式を作成し各学科にて授業評価の実施をするように準備していく。

(4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<p>①課題</p> <p><u>介護福祉学科</u></p>

- ・今年度の退学者はいなかった。
- ・入学後、前期の終了までに退学者が出てしまう
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。

総合福祉学科

- ・介護実習終了後に専門職に対する不安や自信のなさから進路変更を考える学生がみられた。実習は実践の学びの場であることを理解させる、気持ちを前向きにするための個別指導を担当及び学科で行う必要がある。
- ・卒業生が現在どのような活躍をしているのかデータ化しておく必要がある。

子ども心理学科

- ・退学については、前期終了時1年生に複数出た。後期はなし。1年生前期の退学については、「何となく進学した」という意識の低さと将来についてまじめに考える生真面目さが欠けると退学に結び付きやすい。

視能訓練士学科

- ・年々、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

②今後の改善方策

介護福祉学科

- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。

総合福祉学科

- ・1年生からソーシャルワーカーに向けた意欲向上を図っているが、学生によってはそれがプレッシャーになってしまうことも懸念される。学生の自信につながる体験を少しずつ継続して行い、個別面談や個別指導により、細かな面まで支援していく必要がある。
- ・基礎学力固めのために、4時限の時間を利用し、補習コースを実施したが、教員がつくことがあまりできなかった。放課後の時間を有効利用できるような時間割を組んでいきたい。
- ・テーマ設定をし、3学年合同の時間を設けることで学習意欲の向上がみられたため、継続していく必要がある。

子ども心理学科

- ・オープンキャンパスでは、在校生に協力してもらい学校生活について知ってもらう機会が多い。しかし、卒業後の姿について、職業のイメージ化についてはアプローチが薄いため、来年度については、この点を改善できるような企画を考えていきたい。

<u>視能訓練士学科</u> ・ 専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。 ・ 自分に合った効果的な「学び方」の授業を行い、成績不良が原因の退学を予防する。 ・ 入学前から学校に対する帰属意識を高めることと学校を安心・安全な場とする。 ・ 将来像を明確にできるように様々な視能訓練士の働きを紹介するなどして、目指す視能訓練士像を見つけ言語化できるように支援していきたい。
③特記事項 ・ 特になし

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
・ 保護者と適切に連携しているか	4
・ 卒業生への支援体制はあるか	3
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題 <u>介護福祉学科・総合福祉学科：</u> ・ 関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。 ・ 中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。 ・ 学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。 ・ 学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。 ・ 経済的支援で前期が学生に負担が大きい。 ・ 精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。 <u>総合福祉学科</u>
--

・様々な事情を抱えた学生や、学生個人の生活環境等により、問題意識を育む環境整備が困難になっている。学生が自分の考えや行動を客観的に捉える力を養う機会を提供する必要がある。

②今後の改善方策

介護福祉学科

- ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。
- ・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。
- ・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。
- ・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。
- ・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。
- ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。

総合福祉学科

- ・高校生を招いての福祉体験授業はよい反応をいただけた。このような機会を増やしていきたい。

③特記事項

- ・特になし

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

①課題

視能訓練士学科

- ・カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となり、静岡県視能訓練士の会を通して加盟施設へ、不要機器（カリキュラム改訂で必要となる）を譲って頂けないか声掛けを行っているが、現時点では反応がみられない。

<p>②今後の改善方策</p> <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、声掛けを行なっていく。
<p>③特記事項</p> <p><u>共通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である海外研修等については、今年度「台湾研修修学旅行」を実施した。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

<p>①課題</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。 ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。 ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。 ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。(海外等) <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信を広くできるよう、SNSの活用、総合福祉学科のチラシの作成等行っているが、学生募集は伸び悩んでいる。オープンキャンパスの内容をわかりやすい体験にしたり、学生スタッフが常にいたりするようにする等、より身近なものにしていく。 <p><u>子ども心理学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動について課題が残る。学科としてSNSを活用した情報の拡散を行ったが入学へ繋がったとはいいがたい。他の手段を検討したい。 <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士の職業は一般的に知名度が低く、将来のキャリアとして選択肢に挙がりにくい現状がある。そのため、視能訓練士の役割や意義を広く伝えるための啓蒙活動を推進する必要がある。
<p>②今後の改善方策</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。 ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいいため、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。 ・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確認する。 <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSで求められている情報を伝えるようにしていく。 ・高校への出前講座とともに、高校教諭へのアプローチを行いたい。 ・本学の学生と一緒に高校生が参加できるボランティア活動を企画し、福祉と学校のこと両方が知れる機会を提供していきたい。 ・「リカレント教育」の魅力や「学び直しの進学」の魅力の発信を行う必要がある。ターゲット層に合った方法とメッセージを工夫し、ハローワークや地方自治体との連携をし、情報発信の強化をしていきたい。 <p><u>子ども心理学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用については、学科独自ではなく、広報発信のInstagramに協力を求めることにする。その代わりに、学科発信のチラシ等の作成に取り組んでいきたい。また、併設されている「キッズハウスひかり」を活用したイベントを外部に向けて実施したい。 <p><u>視能訓練士学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを頻繁に更新していく。 ・引き続き、実習巡回の際に、各施設に視能訓練士啓蒙のためにポスターやリーフレットの配布を行いたい。 ・現在、資料請求者には手書きのメッセージを送っているが、今後は、学生にメッセージを書いてもらい、より学校と視能訓練士を身近に感じてもらえるようにしたい。 <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
--

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4

・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。 ・個人情報保護に基づいた IT 活用 	
②今後の改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、学科・部署会議で法令順守の確認を常時行う。 	
③特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付け、各家庭の理解を得ている。 ・個人情報に関わる諸データは、全てパスワードで保護している。 ・年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反省させている。年2回自己点検評価の結果に基づいて学校関係者評価委員会を開催。学校関係者評価委員から評価を頂き、まとめ、オフィシャルウェブサイトで公開している。 ・高等教育の就学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバスについて、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。 ・職業実践専門課程認定学科として、毎年7月31日締めで別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。 	

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題	
<u>総合福祉学科</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年継続的に行える地域貢献活動を企業や法人と企画していきたい。 ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。 	

<p>②今後の改善方策</p> <p><u>総合福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの法人や社会福祉協議会と教員で企画を考えている。来年度以降実施できるような形にしていきたい。 ・介護入門研修を実施し、ニーズがまだまだあると感じた。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(11) 国際交流

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

<p>①課題</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人だけでは介護人材を増やすことができない。
<p>②今後の改善方策</p> <p><u>介護福祉学科</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確立する。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

以上